

町制施行70周年 第41回ふながた若鮎まつり開催



9月7・8日、アユパークを会場に町制施行70周年「第41回ふながた若鮎まつり」が開催されました。会場のアユパークをはじめ、町内は7月25日からの大雨により被災しましたが、たくさんの方の協力により会場が整備され、無事開催することができました。2日間で昨年より1,000人多い23,000人の方が訪れました。

ステージエリアでは舟形町芸術文化協会や各種団体のステージイベントのほか、7日にはゲストの工藤綾乃さん、8日には山本譲二さんによる歌謡ショーも行われ、大いに盛り上がりました。

子どもエリアではがみ南部商工会青年部による子ども鮎つかみどり体験が開催され、町内外の多くの子どもたちが夢中で鮎を追いかけました。

また、飲食店ブースには町内からはもとより、友好都市物産交流として宮城県石巻市、静岡県川根町からの出店がありました。鮎の塩焼きをはじめ、鮎ご飯や芋煮、舟形マッシュフライなどのおいしいものが勢ぞろいし、来場者をもてなしました。

なお、会場に設置した7月豪雨災害支援募金箱には来場者のみなさんから寄付をいただいたほか、長南集学校（千葉県）からも支援金をいただきました。

災害を乗り越え、今年も笑顔あふれるふながた若鮎まつりとなりました。

▼問い合わせ先
舟形町まちづくり課ふるさと応援推進室
☎（32）0844

Funagata

[広報ふながた] Public Relations Funagata

SEP 2024
VOL.787

9

contents

- P3 町制施行70周年 第41回ふながた若鮎まつり開催
- P4 令和6年7月25日からの大雨被害 災害からの復興に向けて
- P10 町制施行70周年記念式典を開催します
- P12 発掘！ふながたのお宝
- P14 もっと身近に デジタルのちから
- P16 ふなトビ
- P18 まちかど掲示板
- P19 地域おこし協力隊コラム「舟形見聞録」
- P20 新刊書の紹介、舟形文芸ひろば
- P21 舟形産直だより、舟形まんぷく物語、カメラアングル
- P22 令和7年度 舟形ほほえみ保育園園児募集



表紙の紹介

9月7・8日、アユパークで町制施行70周年「第41回ふながた若鮎まつり」が行われ、多くの来場者でにぎわいました。



お米を食べましょう

先日の新聞に「茶わん1杯実は約39円」という、JAGグループ山形の広告が載りました。テレビなどのマスコミが「米不足」、「米の値段が高騰」、「令和の米騒動」などと報じ消費者の危機感をあおったことで、消費者の米離れを防ぐ目的であろうと想像します。一方で、アフリカのジンバブエでは、厳しい干ばつによる食糧難で人口の半数に飢餓のリスクが差し迫っているとして、ゾウ200頭を殺処分して食料とすることを承認したというニュースが流れました。隣国のナミビアも同様の理由でゾウやカバなどの野生動物700頭を殺処分すると発表しています。干ばつの主な原因は、地球温暖化による気候変動と近年のラニーニャ現象とされています。先進

国が排出している二酸化炭素などがアフリカの人たちや野生動物を苦しめています。また、穀物を輸入しようとしても、ウクライナへロシアが侵攻したことで、世界市場で穀物価格が高騰し発展途上国では輸入することが難しい状況です。

日本の小麦の自給率は18%程度で、米はほぼ100%です。少しぐらい米の値段が上がったからと騒がずに、1杯1,500円のかき氷や、1個500円以上のスイーツを食べられる日本の消費者は、自給率100%のお米を食べ、輸入に頼っている小麦は我慢して、食糧難で困っているアフリカの人たちに譲ってあげたら良いのではないのでしょうか。

森 富広

